

中央大学 vs 順天堂大学

4月14日(日)
11:30K.O.
味フィ西

開幕の慶大戦は勝利したものの、決して楽な試合ではなかった中大。

「運がよかったといえばよかったし、どんな状況であれ勝てたことがよかった」(白須真介監督)

前半は相手の出足のいいサッカーの前に、なかなか思うようなテンポで戦えなかったが、後半4分に慶大が退場者を出すとエンジンがかかり相手を圧倒。25分にゴールを奪って試合を決めた。ただ、慶大は34分にも退場者を出して圧倒的優位に立っただけに、もっと確実にゴールを奪っていきたくところだ。

「最後の精度だったり、そういったところの質を高めていかないといけないと思う」(白須監督)

一方、守備面はだいぶ安定している。90分を通して大崩れする場面はなかっただけに、これを続けていきたい。

対する順大だが、前節(早大戦)の前半の試合内容は放ったシュートが0本と押される展開だったが、そこをしっかりと耐えているうちにリズムをつかみ、後半のアディショナルタイム3分に大きな1点を奪った。

「リーグ戦の初戦はすごく難しいが、89分、ずっと我慢したら神様が最後にほほ笑んでくれた感じ。ただ、パ

ワフルでテクニックもあるチームに対して、我慢し続けることができたのは収穫」(吉村雅文監督)

昨年以上に粘り強いプレーを開幕戦から見ることができ、それを勝利に結びつけたことはチームにとって大きな自信となるはずだ。半面、これを続けることができるかどうかが毎年の課題にもなっている。

「次も同じようにやったうえで積み重ねていくことが大事。微増でいいから上達できるような一戦にしたい」(吉村監督)

昨年の対戦：前期/中大1-0順大、後期/中大1-2順大

中大				順大			
6. 高瀬	7. 砂川	14. 長谷川竜	16. 吉永				
27. 小出			13. 宮本				
	25. 渋谷		22. 長谷川涼				
1. シュミット	4. 細見	9. 木村	10. 井村	6. 岡崎	21. 大畑		
	8. 田辺		7. 和田				
5. 岡崎			5. 新井				
2. 古賀	10. 澤田	9. 岡庭	2. 友澤				

明治大学 vs 桐蔭横浜大学

4月14日(日)
13:50K.O.
味フィ西

1部に昇格したばかりの東洋大に、0-1の敗戦を喫してしまった明大。

「特に前半はうまくいかなかった。自滅。それだけに修正は可能だと思っている。いい経験だったと思います」(神川明彦監督)

明大の強みである攻守の切り替えの早さを発揮できず、作ったチャンスも決めきれなかったのが響いた。

「特に、セカンドボールを拾われた瞬間の切り替えが遅かった。ウチの一番の弱点はセカンドボール。今日経験したことで、学習してくれるはず」(神川監督)

無得点に終わった攻撃面だが、「あれだけ攻めていて入らないのだから仕方がない。技術、シュート力、アイデアもない。練習するのみ。今日、試合で身に染みて分かったはずなので、ここからやってくれると思う」(神川監督)

この1敗が良薬となるか!?

専大に2-6の大敗を喫した桐蔭大。「自分たちの力が分かったと思う。ここから成長につなげていけるように戦っていきたく」(八城修監督)

専大の選手の自由な動きになかなか守備がうまくはまらず、終始、苦しい展開となってしまった。また、試合

開始直前に負傷者が出るアクシデントに襲われたのも不運だった。

「もう少し我慢したり、背後を意識しながらアプローチをきつければよかったのだが……。ボールに対するアプローチが緩かったし、相手のうまさもあってうまく対応できなかった」(八城修監督)

6失点の守備面は修正が急務だが、一方で2ゴールを奪った攻撃面に関しては自信を持ちたいところ。アグレッシブさを失わないようにしたい。

昨年のリーグ戦での対戦はなし

明大				桐蔭大			
15. 高橋	8. 和泉	8. 山崎	3. 香西				
3. 山越	20. 三橋		6. 福島				
	10. 矢田		13. 岡本				
1. 三浦		10. 坪井	5. 金子	1. 島崎			
	6. 水野		7. 平山				
12. 小池	22. 藤本		4. 古澤				
5. 小川	19. 上松	11. 山根	20. 長谷				

※布陣は前節のメンバーを参考にした予想

JR東日本カップ 2013 第87回 関東大学サッカーリーグ戦



OFFICIAL MATCHDAY PROGRAM

VOL.25-NO.2 Division1



編集：加茂郁実 印刷：関東大学サッカー連盟 協力：関東大学サッカーサポーターズクラブ

専大が圧勝、明大は黒星スタート!

いよいよ開幕した『JR東日本カップ 2013 第87回 関東大学サッカーリーグ戦』。毎年波乱が起きやすい開幕戦だが、今年も昨年2位の明大が2部から昇格してきた東洋大に0-1で敗れた。明大は決めるべきところで決められず、相手のペースに引きずり込まれ、東洋大は粘り勝ちを収めた。

昨年の覇者・専大は対照的なスタート。先制点こそ奪われたものの、その後は圧巻の6ゴール。6-2で1部初挑戦の桐蔭大を退けた。

2日目は激戦の連続で。中大と慶大の一戦は、中大が猛攻を仕掛けたがなかなかゴールを奪えず、それでも相手選手が最終的に2人退場者を出したこともあって、1点をもぎ取って1-0で慶大を下した。

早大 vs 順大は互いに攻め手を欠く展開となったが、最後まであきらめなかった順大がアディショナルタイム3分に値千金のゴールを決め、1-0で早大を下した。

日体大と流経大の一戦は、前半が日体大ペース。その勢を保って後半早々の47分、53分にゴールを奪い2点をリードした。その後は流経大が猛攻を繰り広げたが、ゴールを割ることができず0-2の敗戦。日体大は後半の途中からやや受け身に回ってしまったが、しっかりと守りきった。

得点ランキング

仲川 輝人(専大) 2点
前澤 甲気(専大) 2点
山根 視来(桐蔭大) 2点
他1得点10名

アシストランキング

稲葉 圭吾(専大) 2アシスト
他1アシスト6名

昨年、なかなか思うような結果を出せなかった筑波大と国士大のゲームは、筑波大が先制点を奪ったものの、直後に国士大が2ゴールを決めて逆転に成功。筑波大はチャンスの時間帯に決めることができなかった。

1部に昇格した東洋大が、伸び伸びとしたプレーで明大を破る金星。今節は専大と東洋大が激突するだけに、注目の一戦といえるだろう。今回は伝統の早大 vs 慶大戦に加え、筑波大と流経大のゲームなどライバル同士の対戦カードがそろっている。

JR東日本カップ 2013 [第87回] 関東大学サッカーリーグ戦 日程

順位	チーム名	専大	日体大	国士大	中大	順大	東洋大	筑波大	明大	早大	慶大	流経大	桐蔭大	勝数	敗数	引分け	得失点差	勝点		
1	専大		5月26日	5月3日	5月18日	4月27日	4月13日	5月12日	後半戦	後半戦	4月20日	5月6日	6○2	1	0	0	6	2	4	3
2	日体大	BMWス		4月13日	4月28日	5月3日	4月20日	後半戦	後半戦	5月18日	5月11日	2○0	5月6日	1	0	0	2	0	2	3
3	国士大	味フィ西	駒陸		後半戦	4月20日	5月19日	2○1	4月28日	5月25日	5月5日	後半戦	5月11日	1	0	0	2	1	1	3
4	中大	味フィ西	三ツ沢	後半戦		4月14日	5月4日	5月6日	5月26日	後半戦	1○0	5月11日	4月20日	1	0	0	1	0	1	3
4	順大	フクアリ	千葉東総	千葉東総	味フィ西		5月11日	5月25日	5月5日	1○0	後半戦	5月18日	後半戦	1	0	0	1	0	1	3
4	東洋大	駒陸	夢の島	川口	荻野	古河		4月27日	1○0	5月6日	5月26日	後半戦	後半戦	1	0	0	1	0	1	3
7	筑波大	味フィ西	後半戦	1●2	味フィ西	味フィ西	フクアリ		5月19日	4月20日	後半戦	4月13日	5月4日	0	0	1	1	2	-1	0
8	明大	後半戦	後半戦	麻溝	味フィ西	フクアリ	0●1	川口		5月12日	5月3日	4月20日	4月14日	0	0	1	0	1	-1	0
8	早大	後半戦	たつこ	味フィ西	後半戦	0●1	三ツ沢	夢の島	味フィ西		4月13日	5月4日	4月28日	0	0	1	0	1	-1	0
8	慶大	江戸陸	古河	荻野	0●1	後半戦	味フィ西	後半戦	江戸陸	味フィ西		4月28日	5月18日	0	0	1	0	1	-1	0
11	流経大	たつこ	0●2	後半戦	たつこ	味フィ西	後半戦	味フィ西	千葉東総	たつこ	荻野		5月26日	0	0	1	0	2	-2	0
12	桐蔭大	2●6	味フィ西	味スタ西	駒陸	後半戦	後半戦	たつこ	味フィ西	BMWス	たつこ	BMWス		0	0	1	2	6	-4	0



体育会学生のための

リクナビ就職エージェント

あなたの就活を、専任アドバイザーがマンツーマンでサポート。 <http://job.rikunabi.com/agent/athlete/info02/>

筑波大学 vs 流通経済大学

4月13日(土)
11:30K.O.
味フィ西

国士大に逆転負けを喫してしまった筑波大。決して悪い試合内容ではなく、前半22分には赤崎秀平(4年)がゴールを奪って先制に成功したが、この後がいけなかった。28分、30分と連続失点。

「最初の失点后、2点目を続けて取られてしまったように、精神的な弱さが出てしまった。1対1の対応で簡単に入れ替わってしまったりしていた。寄せるということは意識していたと思うが……」(松倉啓太コーチ)

それでも後半はアグレッシブに攻撃し、形を作った。「得点のシーンに象徴されるように、自分たちの距離感でボールが動き出したときにゴールを奪うことができた。しっかりと蹴るところもよかった。後半、相手に守られてなかなか崩せないところなのに、うまく取りに行ったり打開策を持って攻撃できたのは、彼らの力の大きいところだと思う」(松倉コーチ)

あとは結果につなげるだけだ。「完敗だった」とは、流経大・中野雄二監督の弁だ。今シーズンは守備面の強化を目的に徹底してトレーニングしてきたが、前節の日体大戦は後半の立ち上がりにも2失点。風の影響もあったが、流経大らしさを見せるこ

とがまったくできなかったのはショックだろう。「とにかく、連続失点してしまったところは課題。1失点は仕方がない部分もあったが、2点目を取られたことで精神的に重くのしかかった。後半、せっかく風上になったのに、センターバックの二人が怖がってなかなか前に出られなかったのも、そういったことが原因。結局、全体的に間延びしてしまった」(中野監督)

守備に意識がいくあまり、アグレッシブな攻撃につなげることができなかったのは残念だ。

昨年の対戦：前期/筑波大1-5流経大、後期/筑波大1-3流経大

筑波大			流経大		
12. 三丸	13. 曾山		23. 森保	16. 湯澤	
4. 岸			4. 中美	5. 川崎	
	7. 葺本			7. 中山	
1. 神舎	8. 上村	9. 赤崎			1. 原田
	3. 谷口			6. 富田	
	2. 田代		34. 杉山	32. 中津川	
6. 片岡	11. 中野		19. 中村	26. 真辺	

日本体育大学 vs 国士舘大学

4月13日(土)
11:30K.O.
駒陸

流経大を2-0で下した日体大。「監督として初めての大学サッカー。そして、就任して2週間足らずで迎えた開幕だった」

という倉又寿雄監督。それでもチームはよくまとまり、90分間、安定した戦いを見せた。

「後半にしっかりとプレッシャーをかけたし、ボールを奪ってからの攻撃がよくできていた。それが勝利につながったと思う。目指すはアグレッシブなサッカーだが、その中でもパスをしっかりとつないで、相手のイヤなところをついていく戦い方をしていきたい」(倉又監督)

目標とする戦い方が、初戦から表現できたといえるだろう。

「終盤に追い込まれたところがあった。1対1の部分とミスをしたあとの切り替えが遅かったので、修正していかないといけない」(倉又監督)

というように、守備の部分ではさらに修正していく必要がある。

開幕戦で筑波大を逆転で下し、白星スタートを切った国士大。

「自分たちの狙っていた形で点が取れたので、それが次につながるという意味でもよかった」

と、細田三二監督も満足な表情を浮かべた。ただし、喜んでばかりもいられない。

「最後のほうは相手に主導権を握られた。相手がボールを持ったときに、どんな状態でも積極的な守備ができないといけない。何回か危なっかしい場面があったけれど、本来なら流れが変わってしまう。自分たちがイニシアチブを取って、相手のボールを奪いとるということをやっていきたい」(細田監督)

スタートダッシュをかけることができるか!?

昨年の対戦：前期/日体大2-1国士大、後期/日体大3-0国士大

日体大			国士大		
2. 宮内	15. 阿部		18. 橘	29. 山田	
4. 菊地			9. 坂谷	13. 仲島	
	10. 稲垣			20. 松本	
1. 伊藤	8. 中田	11. 北脇			1. 小澤
	6. 石井			7. 橋本	
5. 中西			16. 平松	3. 吉田	
24. 横野	7. 梅村		14. 進藤	6. 嶺岸	

早稲田大学 vs 慶應義塾大学

4月13日(土)
13:50K.O.
味フィ西

昨年度のインカレ覇者・早大が、開幕戦で順大に0-1の敗戦を喫してしまった。

決して展開が悪かったわけではないが、最後までゴールを奪えなかったうえに、アディショナルタイム3分に失点を喫してしまって万事休す。

「勝点3を取りに最後まで戦ったが、悔しい。残念な試合になってしまった」(古賀聡監督)

早大の強みといえば、ボールを奪ってからの人数をかけた厚み&速さのある攻撃。決して回数は多くなかったが、要所で見せることもできていただけに、そこでゴールを奪えなかったのが痛かった。

「後半から少し疲れてしまい、ファーストディフェンスの粘り強さを欠いてしまったり、ポジションを修正できなかった。だから相手にチャンスを与えてしまった」(古賀監督)

90分間、守備のところで踏ん張れるかがカギだ。開幕戦で中大に0-1で敗れた慶大。

「前半はすごくいい試合だった」(須田芳正監督)

というように、中大の攻撃をしっかりと抑えながら自分たちのペースで試合を進めていた。

しかし、後半に入って4分に宮地元貴(1年)が一発

退場となると、リズムが一転。それでも何とか耐えていたが、25分に失点を許すと34分には武藤嘉紀(3年)が退場となってしまい、二人少ない状況ではいかんともしようがなかった。

「全体的に集中して、ディフェンスのところもずっと練習してきたことができていた。次節は二人出場停止だけど、サッカーは何も変えない。初戦で負けたので、早大戦が開幕だと思って頑張る」(須田監督)

出場停止：宮地元貴、武藤嘉紀(以上慶大)

昨年の対戦：前期/早大2-1慶大、後期/早大1-0慶大

早大			慶大		
6. 三竿	8. 近藤洋		6. 山浦	2. 岩田	
13. 金澤	11. 片山			4. 保田	
	18. 小松			8. 松下	
1. 松澤			9. 平戸	11. 近藤	1. 峯
	5. 池西			5. 増田	
2. 奥山	9. 榎本			15. 久保	
12. 八角	7. 近藤貴		7. 磨見	3. 長尾	

専修大学 vs 東洋大学

4月13日(土)
13:50K.O.
駒陸

昨年の王者・専大が上々の滑り出し。開幕戦で桐蔭大を6-2で下した。

攻撃面では両サイドバックが積極的に攻撃参加し、専大らしいアグレッシブさを見せた。ただ、6点を奪ったものの、ほかにも決められる場面があったし、攻撃の組み立ての部分で雑な部分が見られた。もっと精度を上げていかないと1点を争うゲームで苦しくなるし、何より2失点の守備の部分は反省点だ。

「センターバックが若かったり固定できないので、客観的に優勝というのは難しい部分がある。それ以上の攻撃力で打開していくしかない」(源平貴久監督)

特に、昨年から続いている先制点献上というパターンを、何としても食い止めたいところだ。

開幕戦で明大を下した東洋大。「攻守にわたって相手をリスペクトするけれども、受けて立つとやられてしまうという話を選手にした。攻守にわたってこちらが仕掛けていく持ち味を出せば、必然的に相手の持ち味を消すことになる」(古川毅監督)

その言葉どおりのサッカーを表現し、しっかりと勝利を手にした。途中、足がつる選手が出るなど疲労は限界に達していたが、それでもチームとして最後まで戦い抜

いたのは今後につながる。「ただ、ハイテンションの中で、90分間をうまくコントロールしながら試合を進めなければいけないと感じた」(古川監督)

また、明大戦は前半の早い時間帯に点が入ったことで、やや守備の時間が長くなったが、「意図する形は途中までだった」(古川監督)

要所でもう少しボールをつなげるようになると、間違いなく怖い存在になるが……。

昨年のリーグ戦での対戦はなし

専大			東洋大		
5. 山崎	11. 前澤		14. 平石	7. 馬渡	
4. 本名			11. 黒須	5. 藤井	
	7. 長澤			10. 桑田	
1. 福島	8. 下田	9. 稲葉			1. 浅沼
	14. 星野			34. 飯島	
3. 萩間			9. 三田	4. 郡司	
2. 北爪	10. 仲川		33. 篠田	30. 石坂	